

話し合ったテーマ

基礎自治体ごとに話し合いたいテーマを事前に設定しました。

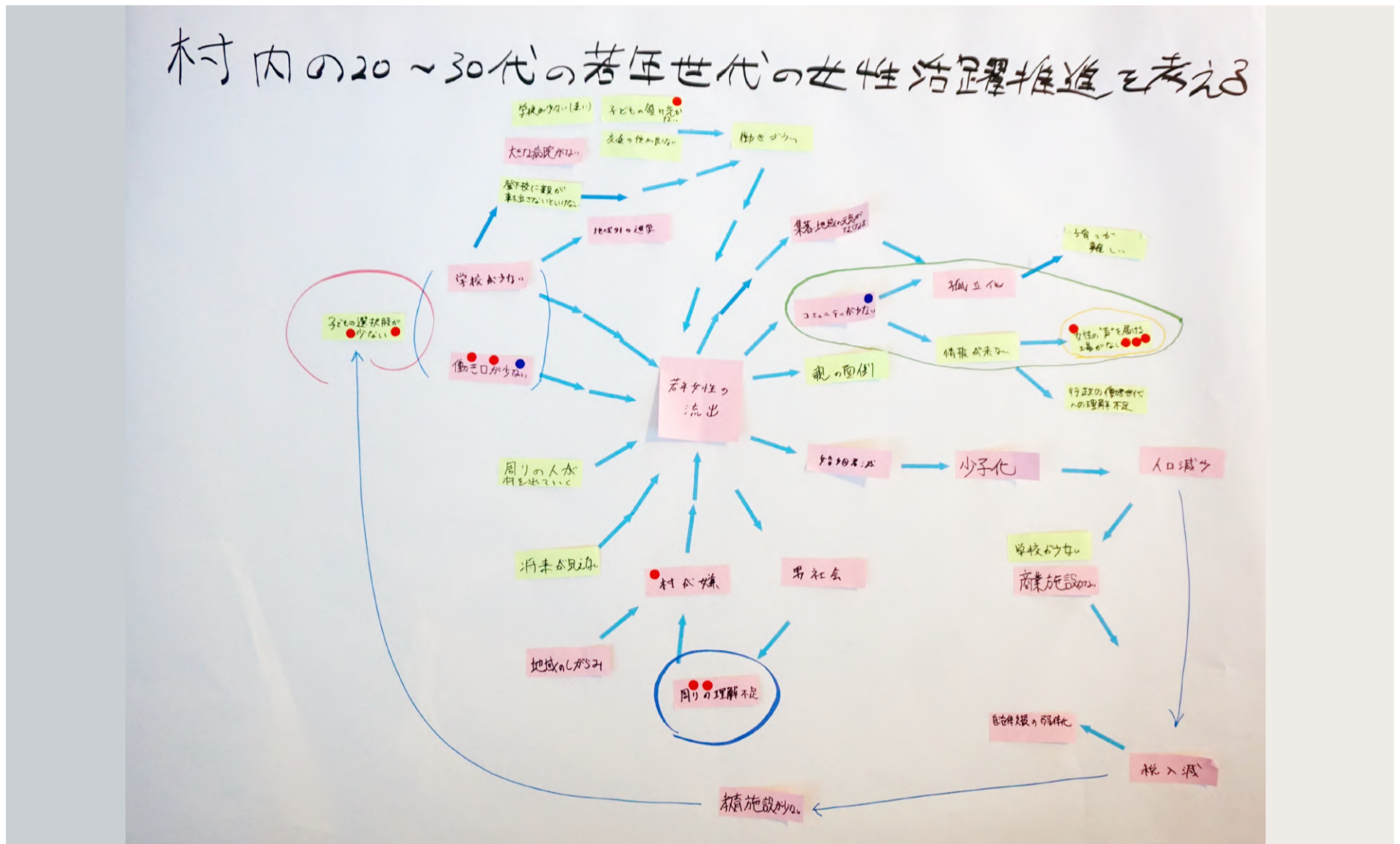
村内の20-30代の若年世代の女性活躍推進を考える

自治体名

嬭恋村

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいのかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのか？を、「問い」のかたちにまとめました。

**1 女性の声を届ける場所がない。  
交流・対話するコミュニティがない**

女性信用が多い、子育て女性を応援する地域企業が自治体や他企業、団体、地域女性とコミュニティを築く土台をつくることで子育てに携わる女性・男性が対話・交流するために、何が可能か？

**2 子供の選択肢が少ない**

地域でチャレンジする大人が自分の姿を発信する、共有する場を設けることで、子供達に将来の選択肢や夢を与えるために、何が可能か？

**3 周りの理解不足**

村内で共働きをしながら子育てする夫婦が同じ立場の人たちとつながりを持ち、お互いの境遇を知り、子育てをする上での不便さについて声を発することで周囲の人（家族や職場など）に理解してもらうために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

<p>輝く！ 嬭恋の女性</p>	<p>夏を中心とした暖かい季節に、村や、町内の人たちが集まる場所に、自治体や事業者によりベンチ、駅併設型カフェ、つながり自動販売機の設置を行い、村中のふれあいや、つながりを増やす。</p>	<p>「グチ」を笑いに</p>	<p>キャベチャー開催日などイベントに合わせてグチを笑いに変えるイベントを開催し、子育て世代の悩み解消につなげる。女性が思うことや、声を第三者が「笑い」に交換して、発信することで女性の悩み解消などにつなげる。</p>
<p>嬭恋キッズニア</p>	<p>村内の小学生から高校生が、嬭恋で職場体験をして、取材をし、発表する探求学習を行う。また動画や広報、場所を設ける。この探求学習により子供達が村内で働く女性の仕事のイメージを持つことができる。</p>	<p>嬭恋・親子食堂</p>	<p>11月～3月以外の時期に万座鹿沢駅で、村、ヤクルト、JR、県内外企業により親子イベントを開催する。女性の応援に寄付するブースを設けたり、子ども食堂などを設け、交流対話の場の創る。</p>